

会報

No. 2
1994.4

CFAJ(Cable Firestop Systems Association of Japan)



ケーブル防災設備協議会

最近の活動状況について

平成5年度は、当協議会が設立してから7年目にあたり、人間に例えれば6才の誕生日を過ぎたところで、丁度、小学校に入学し、色々と新しい事象に遭遇して世の中が開けていく時期です。又、鉄道運賃等からでも分かるように、幼児から児童になることで周りからは「自己判断のできる一人の人間」として扱われる頃でもあります。

協議会の活動もこれまで、技術資料のまとめや国内外の技術動向の調査、Q & Aの作成等による正しい施工方法の普及、「工法表示ラベル制度」によるBCJ評定工法の品質向上といった課題に地道に取り組んできた結果、最近では、当協議会の活動内容が広く認識されるようになってきました。

そこで、今年度は一歩先に進んだ「標準化事業」に取り組み、その一環として当協議会が独自に立案し、検討を重ねてきたバスダクト貫通部の防火措置について、標準化工法を確立し、当協議会名でBCJ評定を取得しました。又、このことから、ケーブル貫通部の防火措置工法等他の工法についても標準化への道が開けたものと考えております。

又、使用材料についても標準化を進め、BCJ評定工法に使用されている耐熱シール材について試験標準をつくり、品質管理にも着手しました。

好評を頂いている「工法表示ラベル制度」もほぼ定着し、今回、バスダクト用のラベルを加えたことにより更に充実させることができ、BCJ評定工法の品質向上に大きく貢献できるようになりました。

本年10月には「東京国際消防防災展」が開催され、当協議会も出展を予定して準備を進めており、長年の活動の成果を披露できるものと考えております。又、建築基準法の改正を契機に「ケーブル貫通部防火措置工法 Q & A」の改訂作業を進めており、来年度には、更に充実した内容の資料として皆様に提供できるものと確信しています。

以上、当協議会の最近の活動状況について簡単にご紹介しましたが、今後とも建設省、自治省、(財)日本建築センターをはじめとする関係当局のご指導を仰ぎながら皆様のお役に立てるよう活動していきたいと考えています。(八田記)

【活動報告】

耐熱シール材の協議会統一試験標準作成

ケーブル防災設備協議会会員各社では、ケーブル配線の防火区画貫通部の防火措置が、正しく施工されるため、一定の品質管理のもとに防火措置材料を製造し提供しています。

防火措置工法にはいくつかの工法があり、種々の材料を組合わせて構成されていますが、構成材料の代表的なものに「耐熱シール材」があります。

一定の品質を維持し、より安定した「耐熱シール材」を提供するためには、「耐熱シール材」に合った試験標準で評価することが必要となります。

当協議会では、会員各社が独自に運用していた試験方法を整理し、JIS規格を参考に協議会統一の試験標準を作成しました。(石田記)

以下に、今回作成した試験標準を紹介します。

試験標準 No.	試験標準名
CFAJ-試1-01	耐熱シール材の比重
CFAJ-試1-02	耐熱シール材の作業性
CFAJ-試1-03	耐熱シール材の耐塩水性・耐水性
CFAJ-試1-04	耐熱シール材の耐酸性・耐アルカリ性
CFAJ-試1-05	耐熱シール材の加熱減量
CFAJ-試1-06	耐熱シール材の軟度
CFAJ-試1-07	耐熱シール材の金属への影響
CFAJ-試1-08	耐熱シール材のゴム・プラスチックへの影響
CFAJ-試1-09	耐熱シール材の酸素指数法による燃焼試験方法

Q：2時間耐火性能とは何か？

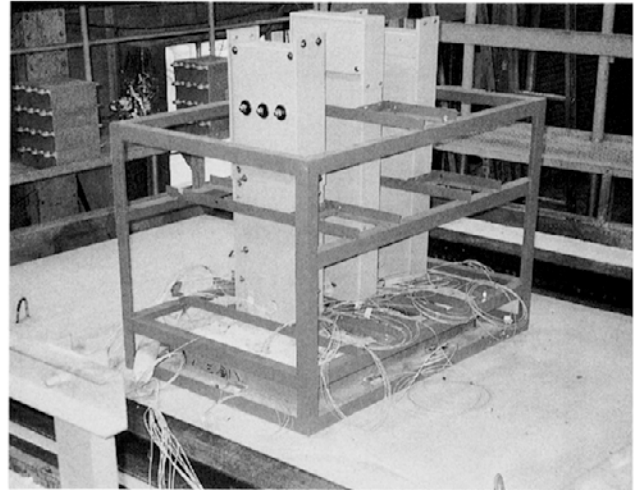
A：通常の火災時の加熱条件（JIS A 1304の加熱標準曲線による）において、ケーブルが貫通する部分の防火措置等が2時間以上の耐火性能を有することをいいます。

〔トピックス〕

バスダクト工法のBCJ評定取得(8社共同で取得)

従来より、バスダクト配線の防火区画貫通部における防火措置工法は、ケーブル配線の防火措置工法に準拠した施工をしておりましたが、ケーブルとは別扱いにするべく当協議会よりBCJへ提案していました。

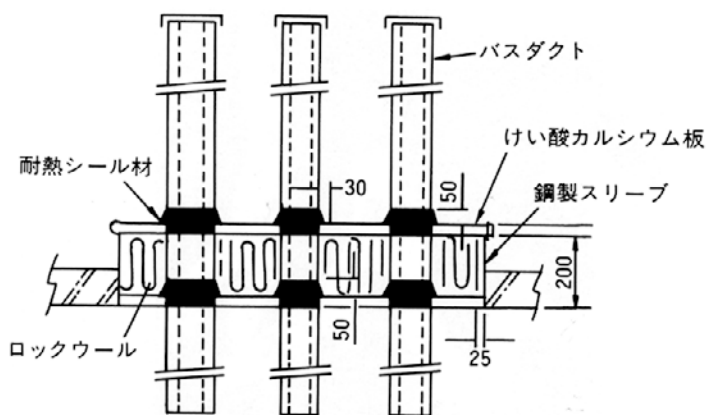
一昨年、BCJ内でバスダクト配線に関する耐火性能試験方法の内規ができました。これに伴い、昨年9月、耐熱シール材による標準的な工法として、鋼製スリーブによる床工法、壁の両側より耐火板で施工する壁工法を、工法名：ケーブル防災設備協議会 バスダクト工法・壁及び床としてBCJ評定を取得しました。(山下記)



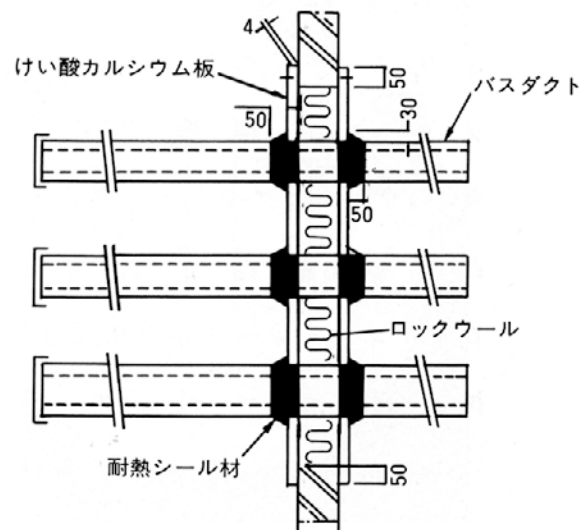
バスダクト耐火性能試験

適用範囲

	BCJ-防災-734	BCJ-防災-735(変1)
適用部位	床	壁・床
開口面積	0.6m ² 以下	
バスダクトの定格電流	3000A, 3回線以下	
耐熱シール材	フレームシール、キャブシール、SFシール、タイカライトプラスターA、ハイシール、エフシールB、ダンシールP、DFパテN	
特長	鋼製スリーブによる片側施工	両側より耐火板によるサンドイッチ工法



BCJ-防災-734 バスダクト工法・床



BCJ-防災-735(変1) バスダクト工法、壁・床

尚、BCJ評定工法においては、下記の点が耐火性能を有するための条件となっています。

- ① 火炎及び著しい煙が貫通しないこと。
- ② 裏面のケーブル表面温度が 340℃以下であること。
- ③ 裏面の壁又は床に接する部分、貫通部構成材の表面温度が 260℃以下であること。

